

こうさい通信

NO.76 平成26年7月

発行 社会福祉法人 東京弘済園
特別養護老人ホーム
弘 済 園

〒181-0013
東京都三鷹市下連雀 5-2-5
TEL 0422-47-8965
FAX 0422-41-1783
tokuyou_2f@kosaien.or.jp
<http://www.kosaien.or.jp/>

笑顔でおもてなし

今年度、弘済園では一層のサービス向上を目指し、スローガンを掲げることにしました。

今年度は全職員の投票により選ばれた、笑顔を決やさず、おもてなしの心で接することが出来たらという思いを込め、

「笑顔でおもてなし」

に決定しました。

これからも、皆様が満足いただけるように精進してまいりますので、どうかよろしくお願いします。

リフト浴のリフトが新しくなりました。



弘済園には、一般浴、リフト浴（座ったまま入るお風呂、歩行はできないが立てる方対象）、シャトル浴（少し背もたれを倒した状態で入るお風呂、瞬間でも立位が取れるか、坐位が保てる方が対象）、シャワー浴（寝たまま入るお風呂）があります。各々に良い面がありますが、特にリフト浴は浴槽にたっぷりのお湯を張って座ったまま昇降して入るお風呂なので、多くの方から「あー気持ちいい」との声が聞かれます。しかし、今年の1月にリフトが故障してしまい、修理に費用がかかることや使用年数等を考慮し、新しいリフト購入に向け入浴委員が中心になり検討に取りかかりました。

カタログ等を参考に数機種を選定し、実際に使用している施設

への見学などを行い機種を決定しました。幸い、禅林寺龍華会様より寄贈して頂くことが決まり、お待たせしましたが、ようやく今月14日に設置工事が完了しました。

新しいリフトは、洗身の為の椅子がそのままリフト用の椅子になり、電動での昇降が可能となるなど、旧リフトに比べ安全で快適に入浴できるようになります。職員の使用方法の習得の為8月からの使用開始になりますが、きっと「ざぶーっ」とお湯をこぼしながら「あー気持ちいい」と言う声がお風呂場に響く事でしょう。

平成25年度弘済園事業報告（抜粋）

（１）個別性を尊重した質の高いケアプランの作成と実践

カンファレンスに家族が参加しやすいよう開催日を調整し、本人・家族の意向要望を踏まえた個別性を尊重した、より質の高いケアプランの作成を心掛けた。また、参加できない家族に対しては、事前に「意見要望確認書」を送付することで要望をくみ取るよう努めた。職員のスキルを高めるため、全職員を対象にして「個別性を重視したケアプランを立てる」をテーマにした勉強会を実施し、ケアプラン作成とケアの実践を図った。

（２）口腔機能維持と誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアの充実

口腔ケアの重要性に関して介護職員の意識の向上や技術を高めるための取組みを行った。また、口腔体操のDVD作成など、フロアの実情に沿ったケアの充実を図った。

口腔体操嚥下機能が低下した利用者に対し、栄養士との連携により、汁や重湯をゼリー状に固めたソフト食を提供したり、個々の状態に合ったトロミの付け方を工夫することで、誤嚥やムセ込みの軽減に努めた。

訪問歯科医より介護職員への助言・指導のもと、日々の口腔ケアの充実を図り、口腔機能の維持管理体制を強化した。

（３）レクリエーション活動の充実と日常生活の活性化

ボランティアの協力を得て季節を感じて行事を実施したほか、フロアごとに実情に合わせ、カラオケ会、お茶会、調理活動の他、クラブ活動等、希望や能力・体力に応じたレクリエーション活動を企画・実施した。

職員異動ご挨拶



平成8年の入社以来、弘済園で介護職、生活相談員として働いてきましたが、4月から養護老人ホーム弘寿園に異動になりました。長きに渡り弘済園で頑張ってきたのも、多くの方の支えがあったからだと感謝しております。弘済園で身につけたノウハウを生かして弘寿園でもがんばっていききたいと思います。同じ敷地内にありますので、見かけたら声をかけてください。

4月1日付 特養から弘寿園へ 澤登岳彦副施設長



ご挨拶が遅くなり、申し訳ありません。4/1付で弘寿園に異動となりました。入職以来、丸3年弘済園3階で利用者の皆様と過ごした日々は勉強、感動、反省の毎日でした。本当にありがとうございました。今は1階の食堂の向こう側で頑張っています。色々な施設があるものなんだなぁと発見の連続です。これからもりんどう等でお会いすると思いますので、その時は声をかけていただくと嬉しいです。

4月1日付 特養3階から弘寿園へ 木林さくらケアワーカー



4月から4階から3階へ異動になりました。初めは分からないことが多く大変でしたが、3か月が経ち、利用者さん達と楽しく過ごさせていただいています。今後も初心を忘れず努力したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

4月1日付 4階から3階へ 菅野志穂ケアワーカー

生活写真館



ほうれん草収穫祭



兜作り



春のお散歩



小松菜の間引き



4月お花見会



グループ活動（散歩）



パック中



七夕の飾り作り



祝・萩谷様100歳①



祝・萩谷様100歳②



祝・萩谷様100歳③



祝・萩谷様100歳④





家族会報告



去る6月22日（日）平成26年度前期家族会を開催しました。第一部には、45家族62名の参加を得て、田中國長の挨拶のあと、市川施設長より弘済園の現状と第三者評価の結果について、村田係長より事故報告を行いました。また、企画委員より、園で使用している車椅子の種類や操作方法について、パワーポイントを使って発表がありました。第二部では、各階ごとに分かれ懇談会があり、参加者（33家族40名参加）の自己紹介のあと、貴重な情報交換の機会となりました。

田中國長の挨拶

- ・弘済園の経営は独立採算が求められている為、健全な運営と経営努力により今年度も黒字決裁になりましたので、ご安心ください。
- ・4月1日から消費税が上がり、食材費が高騰したが、介護報酬は0.63%増にとどまり、食材費負担軽減になっていない。
- ・来年度、消費税が10%上がった際は、介護報酬もその分上がるのではないかと期待している。
- ・感染症対策について、昨年弘済園では集団発症はゼロだった。
- ・弘済園の敷地付近に杏林大学の八王子キャンパスが移転してくるが日照権の問題はクリアされており、キャンパスが近いので職員も学びの場として活用できるのではないかと期待している。
- ・日本無線の跡地に関しては三鷹市と協議し、半分はマンションにして残りの半分をマンション以外の建物にする予定。これに伴い弘済園の敷地に道路を作りたいと申し出あったが、これを実行するには現在の建物を取り壊さなくてはならなくなる為、10年後をめどに新たに話し合う方向で進んでる。

市川施設長より現状報告

【昨年度の事業報告】

- ・個別性を尊重した質の高いケアプランの作成と実施。（例年に引き続き）昨年のカンファレンス141回開催。
- ・利用者の個々の状態に即した食事の提供。軽食対応の説明や栄養士からトロミの付け方を説明。
- ・口腔機能の維持と誤嚥性肺炎予防の為の口腔ケアの充実。
- ・安定した利用率の確保。入院で空いたベットは随時短期入所利用者が使用。
- ・第三者評価の報告。利用者、家族、職員からの意見を報告。

【その他】

- ・今年度5名の方を看取った。



村田係長からの事故報告

- ・前年度277件の事故があり、その内134件が転倒・転落で1番多い為、各フロアでミーティングを行い対策をたて、再発防止に努めている。
- ・平成24年度と比較し、16件の事故が減っている。

企画委員による車椅子とその移乗方法についての説明

弘済園では体力体調面で問題ない方には、極力車椅子に起きて頂き生活にメリハリがつくように心がけている。ただし骨粗しょう症等により骨折しやすい方やしっかり立つ事が出来ない事により、脛等に傷を作ってしまう恐れのある方もおり、移乗や移動には細心の注意が必要となっている。外出や病院に付き添うご家族にも役立つよう安全な移乗方法や車椅子の種類・機能・操作方法についての説明を行った。

《車椅子の種類について》

一般的なスタンダード型にも2種類の車椅子がある。

- ・自操型→後輪が大きく自身で自操できる。
- ・介助用→後輪が小さく小型で小回りが利き、軽量で持ち運びに便利
- ・リクライニング式→背もたれの角度を自在に調節でき、寝た姿勢に近い形をサポート。
- ・ティルト式→座面と背の角度を90度に保った状態で車椅子全体を後方に傾ける事が出来る。
- ・ティルトリクライニン式→リクライニングとティルトの機能を併せ持っている。

☆当園にある車椅子でその方に合った車椅子を使用して頂いています。

第三者評価受審結果についての報告

皆様がサービス提供事業所を選ぶ時の参考にしていただくためと、利用者のニーズの把握、施設の問題点や改善点など明確にし、サービスの質の向上を促進する為、ご家族、利用者のご協力を得て25年度も第三者評価をうけました。

今回は調査会社を変え「ケアシステムズ」にて調査して頂きました。簡単ではありますが報告させていただきます。

◎ケアシステムズが選ぶ弘済園の「良い点・改善すべき点」ベスト3

～良い点～

- ・医師の資格を持つ園長や配置医が協力して、医療と介護の強固な連携をとっている
→内部研修として、医務や介護技術の勉強会を実施しており、本年度は配置医の協力のもと看取り介護勉強会を実施する予定であるなど、医療と介護の連携に着目した研修を実施している。
- ・ケアプランには達成できる目標や分かりやすい目標を設定している
→「個別化でより具体的なプラン作成」を目標に、支援内容がその人のために最適か確認しながら、『実行ができる』プランの作成に取り組んでいる。介護計画・個別機能訓練・栄養ケアも連動する形となっている。
- ・利用開始時の不安やストレスの軽減に努めている
→入居後に以前の生活リズムと大きく変化しないように心がけている。
「施設にきたからこうしなければいけない」とならないように支援している。

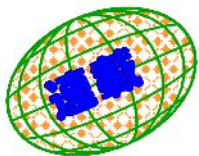
～改善すべき点～

- ・状態変化には都度ケアプランを見直すことが望まれる
→身体状況が著しく変化した時には、随時担当者会議を実施しプランの見直しを図る。
- ・マニュアルは整備されているが課題を検証することが望まれる
→業務マニュアルが整備され各フロアステーションの棚に保管され、職員はいつでも確認がとれる仕組みがあり。緊急時のマニュアルや医療機器・服薬介助マニュアルも適切に用意されているが、事故防止を図るため適切な検証が必要である。
- ・利用者の安全の確保・向上を目指して、計画的に取り組んでいる
→月1回の事故防止委員会を開催して事故を分析し、家族会で必ず事故報告を行い、事業所として事故を隠蔽することのないような意識付けを行い、利用者の安全確保に取り組んでいるが、誤薬に関しては更なる取り組みが必要。



第三者評価結果報告書のより詳しい情報を求める場合は下記のいずれかの方法で確認できます。

ウェブサイト「東京福祉ナビゲーション」
<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>



健康講座 第35回

(田中 潔 常務理事)



健康には広い幅がある

□ 世の中は健康ブーム、健診ブームです

生産力が向上して世の中が豊かになり、富の分配も公平化され、寿命も延び、人々の生活にも余裕が出てきました。市長村や会社の定期健康診断、人間ドック、脳ドックなども盛んです。健診は全く症状のない健康人が対象であり、病気でもない健康人に巨額の公費・私費を費やすのですから、それだけ社会が豊かになった事を物語っています。隠れている病気（病気の芽）を早期に発見し、早期に対処する事により将来重大な事態に至る事を防ぐのがその目的であり、実際にそれなりの成果をあげています。

□ 検査結果の基準値が厳しいと病人が増え不要な投薬が増える

検査結果報告には、[正常値 A~B mg/dl] というような記載があり、この範囲をはずれると「異常（病気）」と判断されてしまいます。しかし、これは間違いです。正しくは、「正常値」ではなく「基準値」です。昨今の日本の基準値は国際的に見ても余りにも厳しいものになっているために、かなり大勢の人が「要精密検査」「要指導」「要治療」と言われて病院紹介となっています。

健診は元々人々の健康維持のための制度なのに、これでは「病人生産制度」になってしまいます。精査や指導で医療機関を受診すると、すぐに薬が開始され、結局は一生飲み続ける事になります。たとえ薬が出ない場合でも、「あれは駄目、これは駄目」「ああしろ、こうしろ」と日常生活の隅々に亘って、医者から色々とお説教を聞かされる事になりかえって元気が無くなってしまいます。基準値に本当に意味があれば仕方ありませんが、医学的な根拠がなく人為的な基準であったとしたら、とんでもない話です。先日人間ドック学会より、膨大なデータに基づいて、男女別、年齢別の基準値の大幅緩和が提案されました。これは歓迎すべきことです。昔の貧しかった時代のデータではなく最新のデータを分析して、人々の健康には広い幅がある、自由が許されている事を明瞭に示しました。

□ 私たちの健康な日常生活には自由が必要です

私たちの健康な生活には心と身体の実山が必要です。健診を受けると、「朝食はしっかり食べろ、間食はいけな、夜食は良くない、一口入れたら30回かめ、黄緑色野菜を食べろ、塩分はひかえ目に、肉と野菜が出たらまず野菜を先に食べろ、青魚を食べろ、小魚（カルシウム）をたくさん食べろ、コレステロール（ケーキ、クリーム、チーズ、チョコレート、イクラ、エビ、タコ、ステーキ）はひかえろ、炭水化物・脂肪・タンパク質の割合はこれこれにせよ、睡眠は最低何時間とれ、昼寝は何十分とせよ、紫外線は有害だから日陰を歩け・海水浴はひかえろ、アルコールはビールなら中瓶1本・日本酒なら1合・ワインならグラス2杯までとせよ、タバコはやめろ、有酸素運動（ウォーキング、ジョギングなど）を毎日30分やれ、腹囲は男性85cm・女性90cmまでとせよ、血圧は130/85以下・悪玉コレステロールは140以下、中性脂肪は150以下、血糖値は110以下とせよ、・・・数え上げればきりがありません。日常生活の隅々にまで亘って、こまごまと干渉され指示命令されたのでは余りにも息苦しく、私たちは心と身体の実き生きた自由を失い、かえって病気になってしまうことでしょう。

□ どうしたら良いでしょうか

症状がなくお元気であれば、特殊検査の多い高価な人間ドックではなく、市町村や会社で行う普通の健診にとどめるのがコツです。人間 齢を重ねると加齢に伴う、どうしても良いような「異常（変化）」が必ず幾つもみつかります。放置しても全く問題ないものでも、健診で指摘されれば素人はパニックに陥ります。人間ドック学会の提案にもとづき日本の異常に厳しい基準値も間もなく訂正され、無駄な精密検査や指導・治療もなくなり、不要な投薬も減少することでしょう。人間の健康には広い幅があります。こまごまとした事に心を惑わされる事のないようにしましょう。現在健康な人は、今まで自分の心と身体を支えてきた生活習慣に自信を持って伸び伸びと生きてゆきましょう。

ご芳志ありがとうございました

(平成26年4月~6月)

◆寄 付◆

奥田郁子様 神田暢夫様 齋藤芙美子様 清水千枝様 杉山恵一様
仲本淳様 萩谷脩也様 山崎芳克様

◆寄 贈◆

青木富子様 井澤千秋様 片岡恵美様 国府田復大様 小関千津子様
佐藤千代子様 山中典子様 飛澤保子様 萩谷様ご家族一同
橋詰妙子様 廣島淑子様 吉野裕子様

(50音順)

編集後記

もうそろそろ梅雨が終わり、夏になります。暑さに負けないように、夏を乗り切ろうと思います。今回から、担当が変わります。高松・新井・浅野の3人です。よろしくお願いします。

浅野